



おとなのワクチン第6回 「麻疹ワクチン」



講師：宮田 智仁 副院長

皆さんこんにちは。
今回は「麻疹(はしか)ワクチン」の話です。

2019年1月は津市で麻疹が流行して大騒ぎになりましたね。でもなんだかもうずいぶん記憶から薄れてしまっている感があります。それほどに今のコロナウイルスの影響は大きいものがあります。

話を麻疹に戻します。麻疹は、発熱と発疹を特徴とする感染症で実はかなり重症化します。50歳以上の方は、子供の頃に同級生や兄弟が麻疹で亡くなった経験を持っているのではないのでしょうか。その昔、日本においては「疱瘡は見定め、麻疹は命定め」と言われていたそうです。これは「天然痘は痘痕(あばた)を残し見た目が悪くなる、麻疹は生命の危機である」という事です。1950年

代までは毎年5000人ほどの方が麻疹で命を落としていました。現在で毎年5000人も命を落としていたら大問題です。逆に今の生きている50歳以上の方々は麻疹流行時期に小児期を過ごしそれを乗り越え生き残った方々とも言えます。

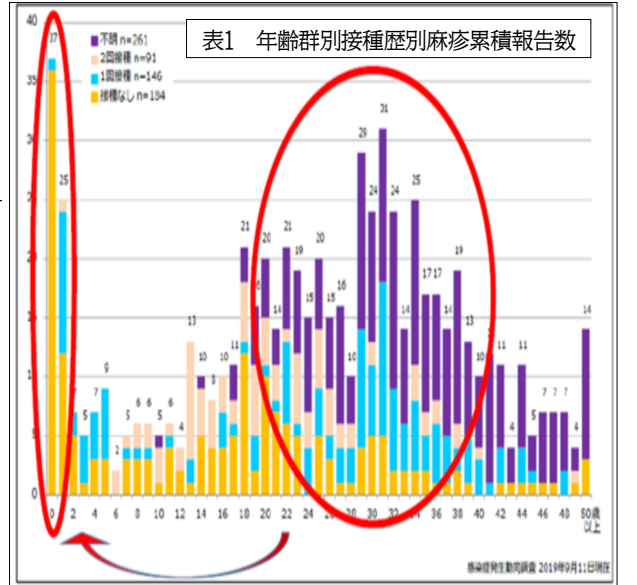
若く子育て世中心に小流行

1966年に麻疹ワクチンが任意接種として開始。1978年に定期接種が開始されました。この当時のワクチンは1回接種。2回接種になったのは2006年で実は最近の事です。麻疹ワクチンは2回接種しないと免疫力がしっかりつきません。それでも日本では、ワクチン接種の広まりのおかげで麻疹発生は激減し、2015年にはWHOから「麻疹の排除状態」というお墨付きを頂くまでになりました。ところが、それ

最も警戒するのは0歳から1歳

日本では近年麻疹が流行しなかったため、麻疹に対する免疫力が乏しくても国内では罹患しませんでした。しかし麻疹は世界中で実は流行しています。不十分な免疫力しかない人が海外に行き感染し、麻疹を持ち込み、日本で発症し周囲にいるやはり免疫力が不十分な世代の方々に広めるという連鎖が起こっているのです。大人世代に広めるだけならまだいいのですが、最も被害を受けるのは実は0歳から1歳児や病气など何らかの理由でワクチン接種が出来ない子供たちなのです。麻疹ワクチンは1歳になるまで接種できません。0歳児やワクチン接種が出来ない児は全く免疫力をもっていません。図1にしめす日本の感染件数は、

理由でワクチン接種が出来ない子供たちなのです。麻疹ワクチンは1歳になるまで接種できません。0歳児やワクチン接種が出来ない児は全く免疫力をもっていません。図1にしめす日本の感染件数は、



ワクチン接種が必要な方は?

早期のコロナウイルスワクチン開発が切望されています。いかにワクチンが大切か。麻疹はワクチンで防げる病气です。ワクチンを打つことで自分の身を守り、そして流行をさせないことでワクチンが何らかの理由で打てない人々を守ります。以下に述べる人たちは麻

疹ワクチンを接種することをお勧めします。

対象者は、2回ワクチン接種のない方で感染したことが確実でない方。特に1972年～2005年生まれの方です。医療関係者、児童福祉機関、教育機関、不特定多数の人と接する職場、海外からの来訪客と接する機会が多い職場、海外渡航の予定がある人。こんな人は、是非ワクチン接種を考えて下さい。

今回は、ムンプスワクチン(おたふくかぜ)のお話をしたいと思います。